

1 事業の成果

同性愛者や性同一性障害など性的マイノリティの人たちが恒常的に集えるコミュニティスペースを常時（週 4 日・年間述べ 198 日）オープンし専門のスタッフが常駐していることにより、そこがハブとなり、行政・教育などと連携が図れ、講演をはじめ様々な事業の増加にもなっている。

(1) 健康支援

HIV 即日検査・カウンセリング・電話相談など総合的なサポート体制により、心と身の健康支援を実施。HIV 性感染症検査（受検者 153 名）においては HIV(+)1 件、梅毒 TPHA 11 件、B 型肝炎 0 件の陽性者を医療機関につなぐことができた。

また、カウンセリング事業は、24 年度以降面接件数が 26 件、117 件、160 件、178 件と続伸していたが、28 年度は 166 件と高止まっている。

電話相談事業「SHIP ほっとライン」においても、24 年度以降 45 件、82 件、80 件、107 件、そして 28 年度は 148 件と、増加を続けている。

(2) コミュニティ支援

性的マイノリティが自由に集える交流スペースを週 4 日間、年間 198 日間オープンし、626 名の利用があった。そのうち新規利用者が 165 名 (26%) で、リピーターが 461 名 (74%) であった。年齢別では、10 代が 191 名 (31%)、20 代が 266 名 (43%) であったことから、自らのセクシュアリティに気づいて間もない人たちの居場所となっている。

グループミーティングは、セクシュアリティや年齢別に 8 種類、62 回開催し、参加者数は述べ 370 名であった。

また、行政との連携により、横浜市においては交流スペースを 24 日間開設、横須賀市においてはグループミーティングを 12 回開催した。

(3) 性的マイノリティの人権擁護に関する一般社会への啓発

教育機関・行政と連携を長期間持続している成果として、講演の回数は 106 回に増加した（前年度は 84 回）。対象者総数は 7,084 人であり、学校は教職員から直接生徒への授業、一般向け講演新しい場所での実現と、性的マイノリティの理解への道は確実に進んでいる。

(4) 性的マイノリティに関する調査事業

コミュニティスペース利用者のアンケート調査を平成 28 年 4 月より実施し、3 月末までに 624 件のデータを集めることができた。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 健康支援事業

ア HIV/AIDS 等性感染症の検査の実施（厚生労働省エイズ対策研究事業）

- ・ 内 容 HIV・性感染症検査（即日検査）
- ・ 日 時 毎月 1 回 月曜日、受付時間 17:40～20:00（終了 22:00）
- ・ 場 所 かながわ県民センター 及び ユニコムプラザ相模原
- ・ 従事者人員 延べ 62 人（医師、看護師、検査技師、事務）
- ・ 受益対象者 県内および首都圏に住むゲイ・バイセクシュアル男性 153 人
- ・ 支出額 1,275,404 円

イ 相模原市 HIV 即日検査

- ・ 内 容 HIV 検査の広報および予約受付業務、相談業務
- ・ 日 時 12 月 4 日（日）13:00～17:30

- ・ 場 所 ユニコムプラザ相模原
- ・ 従事者人員 延べ 3 人
- ・ 受益対象者 予約 25 人、受験者数 17 人
- ・ 支出額 104,438 円

ウ カウンセリングによるメンタルヘルス支援

- ・ 内 容 希望者に対しての対面面接による問題解決支援
- ・ 日 時 隔週金曜 14 時～20 時、隔週土曜 13 時～17 時（計 45 回）
- ・ 場 所 横浜 AIDS 市民活動センター（中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9 階）
- ・ 従事者人員 延べ 45 人（臨床心理士）
- ・ 受益対象者 来談者 延べ 166 人
- ・ 支出額 565,266 円

エ ホットラインによるメンタルヘルス支援

- ・ 内 容 電話相談
- ・ 日 時 毎週木曜 19 時～21 時（2 時間）
- ・ 場 所 特定非営利活動法人 S H I P の事務所
- ・ 従事者人員 延べ 76 人
- ・ 受益対象者 相談成立 述べ 148 名
- ・ 支出額 235,768 円

オ 横浜市個別相談支援（横浜市委託事業）

- ・ 内 容 臨床心理士による無料の対面相談
- ・ 日 時 4 月～3 月までの月 2 回（計 24 回）
- ・ 場 所 横浜市内（横浜市青少年相談センター）
- ・ 従事者人員 延べ 24 人
- ・ 受益対象者 延べ 18 人
- ・ 支出額 1,132,228 円

② コミュニティ支援事業

ア コミュニティスペースの運営

- ・ 内 容 性的マイノリティが恒常的に集える場所としてコミュニティスペース「SHIP にじいろキャビン」を開設し、情報の提供や相談を実施する。
- ・ 日 時 毎週水・金・土曜 16:00～21:00、日曜 14:00～18:00 延べ 198 日
- ・ 場 所 特定非営利活動法人 S H I P の事務所
- ・ 従事者人員 235 人
- ・ 受益対象者 県内および首都圏に住む性的マイノリティ 述べ 624 人
- ・ 支出額 2,535,493 円

イ グループミーティングの開催

- ・ 内 容 性的マイノリティやその家族が交流できるグループミーティングを開催。
- ・ 日 時 4 月 3 日～3 月 25 日の期間 62 回
- ・ 場 所 かながわ県民センター、神奈川県内公共施設等
- ・ 従事者人員 延べ 150 人
- ・ 受益対象者 県内および首都圏に住む性的マイノリティ、およびその家族 延べ 370 人
- ・ 支出額 1,271,307 円

ウ 横須賀市補助事業

- ・内 容 横須賀市における10代・20代を対象としたグループミーティングの開催
- ・日 時 5月15日～3月12日の期間 12回
- ・場 所 横須賀市内、公共施設
- ・従事者人員 延べ24人
- ・受益対象者 横須賀市とその周辺地域の性的マイノリティ 延べ55人
- ・支出額 422,293円

エ 横浜市交流スペースの運営(横浜市委託事業)

- ・内 容 性的マイノリティの交流スペースの運営
- ・日 時 4月～3月までの月2回(計24回)
- ・場 所 横浜市内(男女共同参画センター横浜)
- ・従事者人員 延べ48人
- ・受益対象者 延べ80人
- ・支出額 1,079,845円

③ 性的マイノリティの人権擁護に関する一般社会への啓発事業

ア 一般社会への啓発事業

- ・内 容 多様な性的マイノリティの可視化および人権擁護の意識を高める。特に学校や社会生活を送るうえでの困難について重点的に扱う。
- ・日 時 4月19日～3月25日(延べ106回)
- ・場 所 小中学校、高等学校、大学、行政施設、公共施設など
- ・従事者人員 延べ210人
- ・受益対象者 県内の学校教職員・生徒・学生、行政関係者、一般市民 延べ7,854人
- ・支出額 1,868,957円

イ 講座の開催および啓発資材作成(ハートフル基金)

- ・内 容 講座の開催および啓発資材作成
- ・日 時 12月3日、1月15日、2月5日、2月26日(延べ4回)
- ・場 所 宝塚大学新宿キャンパス、かながわ県民センター
- ・受益対象者 延べ66人
- ・支出額 306,633円

ウ 啓発資材作成(横須賀市委託事業)

- ・内 容 啓発資材「性的マイノリティって知っている？」の作成
- ・体裁・部数 A4サイズ・3つ折り、5,000枚
- ・支出額 117,720円

④ 性的マイノリティに関する調査事業

- ・内 容 来場者アンケート調査
- ・日 時 4月1日～3月31日
- ・場 所 コミュニティスペース「SHIPにじいろキャビン」
- ・調査件数 626人
- ・支出額 2,916円